

## 6. 三之丸天王祭(那古野祭)

三之丸天王祭は名古屋築城以前より鎮座する牛頭天王社の祭礼で京都祇園社の御霊会の影響を受けて始められ祇園祭とも称された。祭礼日は6月15日が宵宮、16日は朝祭である。

祭礼には天王御車とも呼ばれた二輛の車樂が曳き出された。

車樂とは中世以来の伝統を有する祭車のことである。

この車樂は先車は名古屋村、広井村、車之町、後車は車之町、益屋町が年番を定め、宵宮と朝祭で装いを変えて曳出した。

古くは中野村、高島村、車之町が後車を務めた。

車之町は「二輛番」と称し先、後の両車を務める年もあった。

十代藩主斎朝公は車之町に胡蝶の舞の人形を据えた山車を下賜し15日の宵宮に曳き出させ、是を見舞車と呼んだ。

是を期に他の氏子町村からも続々と見舞車が造り出され、天王祭は大変賑やかなものになった。

最盛期には車樂2輛と見舞車16輛が祭礼に曳き出された事を伊勢門水は自著「名古屋祭」に記載している。

明治25年(1892)に2基の神輿を新調し、新式の祭礼を始めた。

車樂之図 伊勢門水筆



## ■三之丸天王社(現那古野神社)

醍醐天皇の御代、延喜11年(911)3月に那古野庄今市場に勅を奉じ鎮祭せられた。当時は亀尾天王社と称し、郭内天王、三之丸天王とも呼ばれた。

神仏習合により、別当として真言宗亀尾山安養寺十二坊(天王坊)があった。

本尊は薬師如来(牛頭天王の本地仏)

天文元年(1532)3月、那古野合戦で焼失し、織田信秀が天文7年社殿を再興した。

元禄4年(1691)8月、豊臣秀吉は改めて社領348石余を寄せる。



徳川家康が慶長15年(1610)名古屋城築城の際、郭内に鎮座する若宮・天王社の両社を郭外への遷座を計画し築城奉行、佐久間政実(まさざね)に神籤を取らせ神慮を伺った結果、若宮は松原町へ遷座し、天王社は不遷となり、城の鎮守として現社地に依存することになった。

元和6年(1620)9月には藩主義直により改めて社領348石余を寄せ墨印地とした。

明治維新、廃藩置県の際社領は没収され安養寺は廃寺となった。

神仏分離の後、牛頭天王社を改め、須佐之男社と称する。

明治5年(1872)郷社に列し、同9年(1876)10月茶屋町(現社地)に遷座となる。同11年(1878)には県社に列し、明治32年(1899)7月に那古野創始の由緒に基づき那古野神社と改称した。

## ■車楽(だんじり)

宵宮と朝祭、それぞれに姿を変えて登場する。  
本体は二層の曳山で一木四輪の外輪、二階部に  
役者が乗り込み、稚児舞や楽(囃子)を行なう。  
熱田神宮の神楽座に属した楽人が奉仕した。

### ①先御車 戦災焼失

名古屋村、広井村、車之町が年番で出す  
能人形は高砂

◆建造:文明年中(1469-1486)の作  
※氏子編成後は車之町が支配

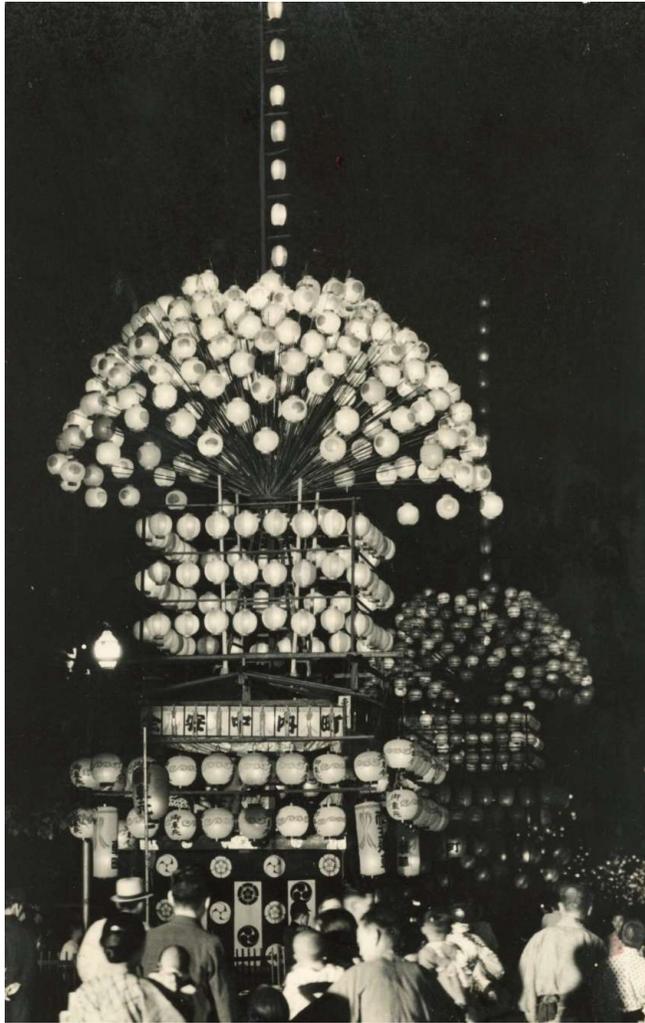
### ②後御車

車之町、益屋町が年番で出す  
以前は中野村、高島村、車之町がかかわる  
中野村、高島村が困窮し車を益屋町へ譲渡  
能人形は室君

◆建造:文明年中(1469-1486)の作  
※氏子編成後は茶屋町が支配



## 宵宮と朝祭の車楽



建造:文明年中(1469-1486)の作 ※茶屋町の車楽(左)が現存

宵宮は津島天王祭の車楽船の様に、一本一本、提灯を竹の先に付けて半球状に形作り、巻藁船の様に飾る。朝祭は屋根に屋形等を乗せ、二体の能人形を安置し、松を立て幕で山の形を作って飾る。



## ■見舞車

宵宮の車樂に献灯する目的で造られた山車で、氏子の車ノ町、益屋町、名古屋村、広井村の四町村より曳きだされた。伊勢門水著「名古屋祭」には16輛が記録されている。

天明5年(1785)頃、氏子が提燈を灯し宵宮の車樂に献灯していたが、享和3年(1803)頃に大八車に笹提燈を飾った見舞提燈小車が誕生、後に見舞車と進化する。

見舞車の形状は名古屋型である。

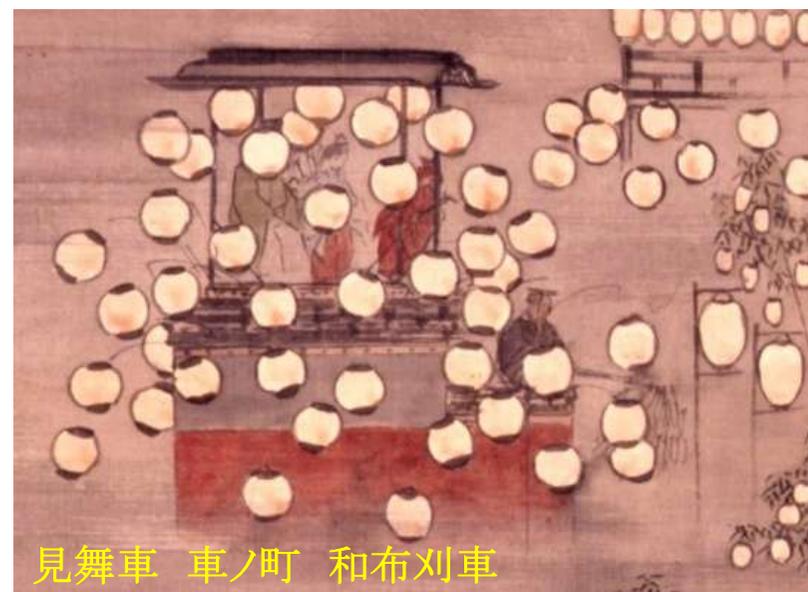
見舞車を名古屋型の小型の山車と誤った認識があるが、諸文献で記載されている小車との表現は、車樂(大きな山車)に対する見舞車(小さな山車)の呼称である。

山車の大きさは山車を曳く町内の道幅を表しており、碁盤割町内や若宮氏子町内では道幅が広く大振な山車が曳けたが、近在の町村では道幅が狭いので小振な山車しか曳けなかった。碁盤割町内の益屋町の靱猿車は、碁盤割町内の山車らしい大きさと風格がある。

※見舞車は諸文献で16輛以上の存在が確認されている。文政7年(1824)の「青窓紀聞」では巾下(12輛)広井(10輛)益屋町(1輛)車ノ町(1輛)の24輛を記録している。



見舞提灯



見舞車 車ノ町 和布刈車

## ■三之丸天王祭 御見舞車18輛の一覧 (山車・からくり人形の変遷)

| 車楽支配   | 町名     | 山車名    | 山車建造年  | 西暦     | 山車の形状  | 人形製作年     | 西暦        | 人形作者      | 所在 ※現存 ※他所で現存   |           |
|--------|--------|--------|--------|--------|--------|-----------|-----------|-----------|-----------------|-----------|
| 車之町    | 車之町    | 胡蝶車    | 文化年間以前 | 1817以前 | 名古屋型   | 文化年間      | 1804-1818 | 不明        | 大曾根へ譲渡の可能性あり    |           |
|        |        | 和布刈車   | 明治12年  | 1879   | 名古屋型   | 明治12年     | 1879      | 不明        | 戦災焼失            |           |
| 益屋町    | 益屋町    | 司馬温公車  | 文化年間以前 | 1817以前 | 名古屋型   | 文政元年頃     | 1818頃     | 不明        | 不明              |           |
|        |        | 韃靼車    | 嘉永元年   | 1848   | 名古屋型   | 嘉永元年      | 1848      | 隅田仁兵衛     | 美濃市常磐町で現存       |           |
| 名古屋村   | 新道町(上) | 不明     | 文政元年以前 | 1818以前 | 名古屋型   | 不明        | ---       | 不明        | 不明              |           |
|        |        | 殺生石車   | 文政10年  | 1827   | 名古屋型   | 文政10年     | 1827      | 不明        | 戦災焼失            |           |
|        | 新道町(中) | 翁車     | 文化元年   | 1804   | 名古屋型   | 文政年間      | 1818-1830 | 津田大掾      | 戦災焼失            |           |
|        | 小伝馬町   | 湯取車    | 享和元年   | 1801   | 名古屋型   | 文政年間      | 1818-1830 | 不明        | 小牧市上本町へ譲渡       |           |
|        |        |        | 安政元年   | 1854   | 名古屋型   | 安政元年      | 1854      | 不明        | 戦災焼失            |           |
|        | 郷      | 不明     | 散手車    | 文政元年以前 | 1818以前 | 名古屋型      | 文政年間      | 1818-1830 | 不明              | 不明        |
|        |        |        | 散手車    | 文政11年  | 1828   | 名古屋型      | 文政11年     | 1828      | 不明              | 戦災焼失      |
|        | 万松寺町   | 浦嶋車    | 不明     | 文政8年以前 | 1825以前 | 名古屋型      | 文政年間      | 1818-1830 | 不明              | 不明        |
| 天保13年  |        |        | 1842   | 名古屋型   | 天保13年  | 1842      | 竹田源吉      | 美濃市泉町で現存  |                 |           |
| 明治12年  |        |        | 1879   | 名古屋型   | 明治12年  | 1879      | 不明        | 戦災焼失      |                 |           |
| 廣井村郷の内 | 上ノ切    | 不明     | 文政元年以前 | 1818以前 | 不明     | 文政7年      | 1824      | 不明        | 不明              |           |
|        | 新屋敷    | 不明     | 文政元年   | 1818   | 名古屋型   | 文政7年      | 1824      | 不明        | 不明              |           |
|        |        | 神功皇后車  | 文政元年   | 1818   | 名古屋型   | 天保13年     | 1842      | 竹田源吉      | 東区筒井町で現存        |           |
| 八(矢)切  | 不明     | 文政元年以前 | 1818以前 | 不明     | 文政7年   | 1824      | 不明        | 不明        |                 |           |
| 廣井村    | 上花車    | 紅葉狩車   | 文政3年以前 | 1820以前 | 名古屋型   | 文政年間      | 1818-1830 | 竹田源吉      | 現存              |           |
|        | 下花車    | 二福神車   | 文政4年   | 1831   | 名古屋型   | 文政年間      | 1818-1830 | 不明        | 浜松市宮口地区で現存      |           |
|        |        |        | 天保7年   | 1836   | 名古屋型   | 天保12年     | 1841      | 真澄        | 現存              |           |
|        | 内屋敷    | 不明     | 唐子車    | 文政4年以前 | 1821以前 | 名古屋型      | 文政9年      | 1826      | 不明              | 不明        |
|        |        |        | 唐子車    | 天保12年  | 1841   | 名古屋型      | 天保12年     | 1841      | 不明              | 現存        |
|        | 中之切    | 不明     | 張良車    | 文政3年以前 | 1820以前 | 名古屋型      | 文政年間      | 1818-1830 | 不明              | 不明        |
|        |        |        | 張良車    | 文政7年   | 1824   | 名古屋型      | 弘化4年      | 1848      | 隅田仁兵衛           | 常滑市西ノ口で現存 |
|        | 戸田道    | 弁天車    | 文政4年以前 | 1821以前 | 名古屋型   | 文政年間      | 1818-1830 | 不明        | 戦災焼失            |           |
|        | 古江     | 神楽車    | 文政4年以前 | 1821以前 | 名古屋型   | 文政年間      | 1818-1830 | 不明        | 小牧市上本町へ譲渡の可能性あり |           |
| 禰宜町    | 胡蝶車    | 文政4年以前 | 1821以前 | 名古屋型   | 文政年間   | 1818-1830 | 不明        | 明治20年頃焼失  |                 |           |
| 禰宜町    | 人形不定車  | 文政4年以前 | 1821以前 | 名古屋型   | 文政年間   | 1818-1830 | 不明        | 不明        |                 |           |

※猿猴庵日記の文政8年に名古屋村に12~13輛存在した記載がある

- からくり人形の作者は隅田仁兵衛・竹田源吉の手によるものが多い。
- 明治時代に他所に譲渡、戦災焼失などで、現存は3輛のみ。他所に5~6輛存在している。所在不明も多い。

## ■碁盤割 御見舞車

### 車之町 和布刈車

- 十代藩主斎朝公より胡蝶車を拝領する
- 明治12年(1879)和布刈車に替る



## 益屋町 靱猿車

- 最初は司馬温公車を造る(文化年間以前)
- 文政元年(1818)大きく造り直す
- 嘉永元年(1848)靱猿の人形に替る
- 明治30年(1897)美濃上有知の常盤町が購入する



■名古屋村 新道 御見舞車



新道町(上) 二代目殺生石車  
文政10年作(1827)



新道町(中) 翁車  
文化元年作(1804)

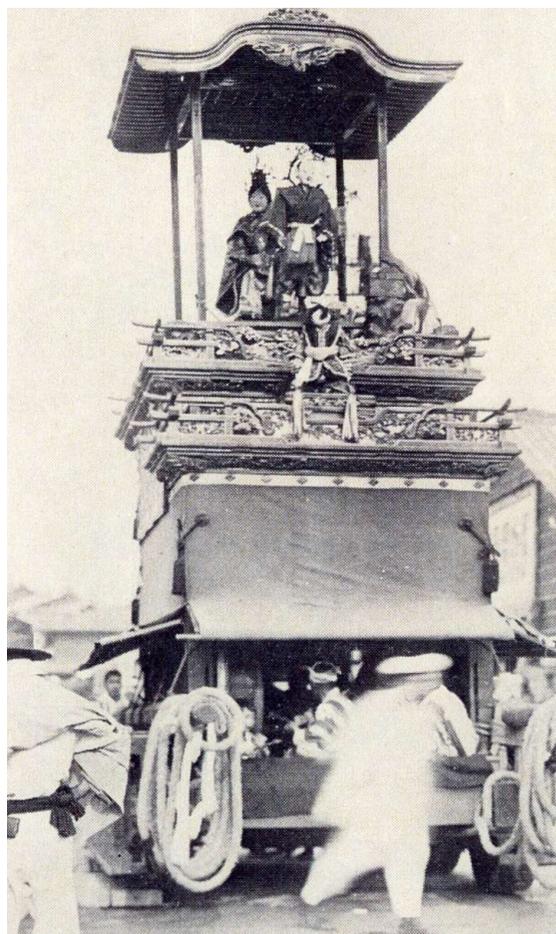


小伝馬町 二代目湯取車  
安政元年作(1854)

■名古屋村 新道 御見舞車



郷 二代目散手車  
文政11年作(1828)



万松寺町 三代目浦鳴車  
明治12年作(1879)



美濃市 泉町所有

二代目 浦鳴車  
天保13年作(1842)

■ 廣井村 御見舞車



内屋敷 二代目唐子車  
天保12作(1841)



上花車 紅葉狩車  
文政3年以前の作(1820以前)

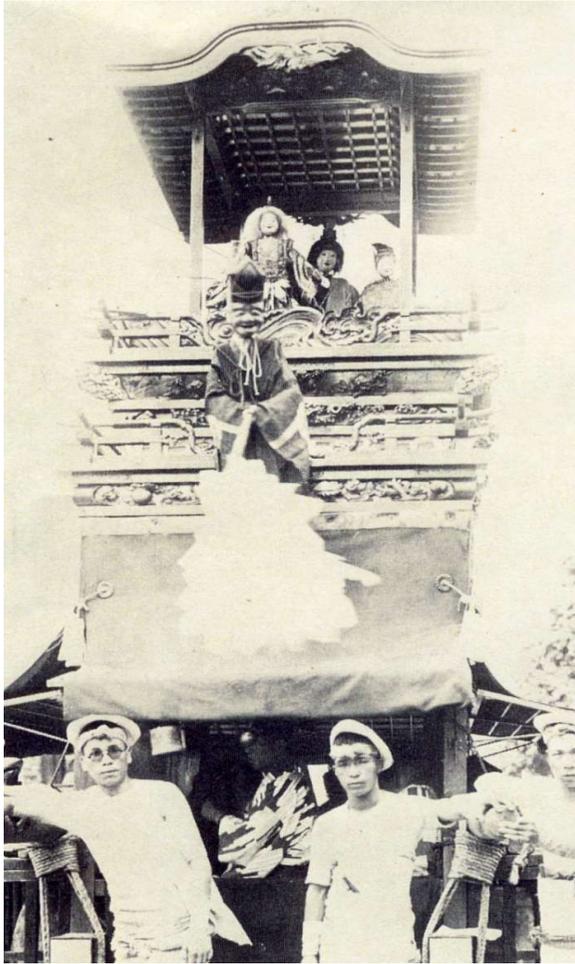


下花車  
二代目二福神車  
天保7年作(1836)



初代 二福神車  
文政4年作(1821)

■廣井村 御見舞車



戸田道 弁天車  
文政4年以前の作(1821以前)



新屋敷 神功皇后車  
文政元年作(1818)



中ノ切 二代目張良車  
文政7年作(1824)

## ■明治維新後の新式の祭礼

盛大だった祭礼も明治維新となり、藩からの車田の給付五十石が無くなり、祭礼の維持が難しくなった。明治6年(1873)に広井村が車楽支配から離脱し、明治9年(1876)には天王社が名古屋城外の茶屋町へ移された。その後、名古屋村、益屋町も離脱した為、車楽は先車を車ノ町、後車を茶屋町が支配する様に変更された。明治10年代を最後に車ノ町以外の見舞車は曳き出されなくなった。盛大だった天王祭であるが旧来の氏子での実施は困難となった。

後に氏子町々の区域が定まり名古屋市目貫の本町玉屋町を始め、伝馬町、京町通りから川西迄に及んで総計五十三ヶ町、五千四百十五戸の立派な氏子が確定した。

明治25年(1892)に町々は往古の車楽の他に、京都式の白木の神輿2基を新調して新しい行列(山車、警固、神輿等)による祭礼を始めた。

上玉屋町の西王母車(若宮祭車)は氏子変えにより天王祭車となり、車ノ町から旧御見舞車の和布刈車が当祭礼に曳くことになった。祭礼日も7月15・16日に変更された。



明治25年新調の暴れ神輿

■須佐之男神社神輿御渡之図

明治25年7月6日出版 中山米二郎 個人蔵

明治25年(1892)に神輿二基を新調して始められた新式の祭礼に氏子変えの玉屋町から西王母車(元若宮祭の祭礼車)・車之町の和布刈車が行列に参加した。この祭礼の記念に刷られた「須佐之男神社神輿渡御之図」には、祭礼に参加した2輛の車楽と7輛(内6輛は旧御見舞車)の山車が描かれている。

【新式の行列】

- |       |                |
|-------|----------------|
| ①西王母車 | 上玉屋町           |
| ②和布刈車 | 車ノ町            |
| ③猿田彦  | 呉服町(二丁目)       |
| ④御獅子  | 伏見町・研屋町        |
| ⑤龍頭   | 西魚町            |
| ⑥ 鯨   | 小田原町           |
| ⑦獅子   | 各町子供           |
| ⑧大鳥毛  | 伝馬町 四人         |
| ⑨傘鉾車  | 玉屋町(三丁目)       |
| ⑩剣車   | 上長者町           |
| ⑪樂人   | 下長者町(三丁目)      |
| ⑫第一神輿 | 舁人五十人          |
| ⑬第二神輿 | 舁人六十人          |
| ⑭その他  | 盛栄連の屋体、樽神輿、梵天等 |

